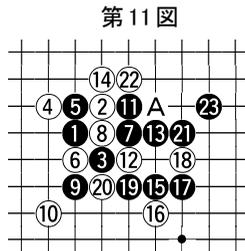


浦月四題目の解明 (2)

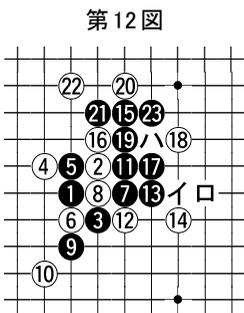
九段 河村典彦

【第11図】前回の続きから。黒17に対し白18も考えられる。黒19からは追い勝ちだが、引いて行ってしまつてはすぐ詰まる。ここは一本黒19と引いてから、黒21と含むのが良い。白22はA

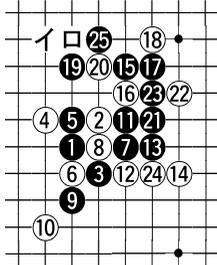


からの四追いをノリ手で防ぐ手で一瞬ひやつとするが、黒23と打てば以下四追いである。この手は盲点となりやすいが、こういう手が残っているのも直前の含み手の効果である。

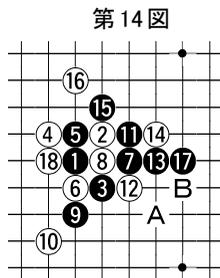
【第12図】白14の変化。この14に対しては当然上辺に進出することになるが、軽く黒15が良いだろう。白16が当然のように待っているが、黒17から手順に引いて行けばわかりやすい。黒23後イロハとなる。



第13図

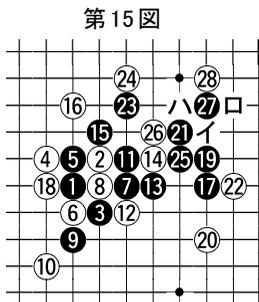


【第13図】白16の変化。黒17と押さえればミセ手になる。白18しかないが、黒19と飛んで以下勝ちになる。黒25後イロハ。
【第14図】白14の変化。実はこの白14がすこぶる難題である。黒15、白16の交換の後、黒17で簡単に勝ちと思つていたので、白18の防



ぎを発見して分からなくなった。あまりにわからないので、ついにはこの勝ちの発案者である中村名人に聞く羽目となった。

ちなみに、黒17をAと叩くと交換に白Bと叩かれ勝てなくなる。白18までの局面は、縦にできた剣先をどうやってかわすかがテーマとなる。
【第15図】黒17は前図ではだめで、この17が良い。白18の防ぎに対しては黒19とミセる。これが勝ちの第一歩。対して白は20の焦点



止めが最強である。ここで黒21と連続ミセ手を打つのが気が付きにくいがいまい手になっている。この手は白22と止められて損なようだが、後でわかるように縦に三を引くことという狙いである。

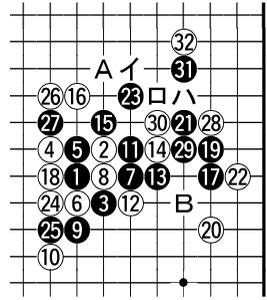
【第16図】せつかく四ノビの筋があるので、白24、26を利かしてか

黒27と飛ばせばようやく勝ちにたどり着く。黒29よりイロハ。

【第16図】せつかく四ノビの筋があるので、白24、26を利かしてか

黒27と飛ばせばようやく勝ちにたどり着く。黒29よりイロハ。

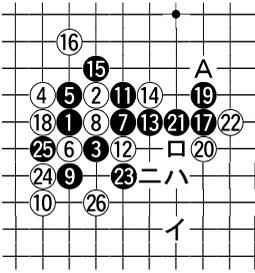
第16図



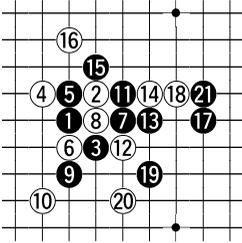
ら白28に止めておく手も十分考えられる。これにはやはり黒29とこちら側に三を打つのが良い。黒31でやはり解決する。白32の外止めで以下イロハ。なお、白30でAの外止めは以下四追い。白20をBの止めの時も同順で勝ちが出ることはBに白石を入れて見ても影響がないことからわかるだろう。

【第17図】白20の変化。直止めの場合は剣先が生きてくるので下辺で勝てる。黒21、23と打てば、白24、26のノリ手にもイロハ二の四追いが発生する。なお、白20でAも同じ手順で勝てるのは容易にわかるであろう。これで黒19に対して白20の止めを網羅できた。

第17図



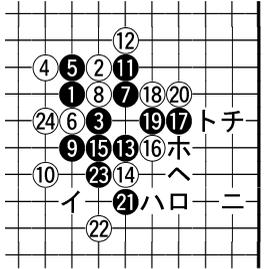
第18図



【第18図】白18で牽制せずに素直に防ぎに来るならそれほど問題はない。白18なら、黒19、21と打てば簡単である。白18を他の防ぎも容易に勝てるであろう。

【第19図】白12の変化。白12と上を押さえてきたら、黒13と組む

第19図

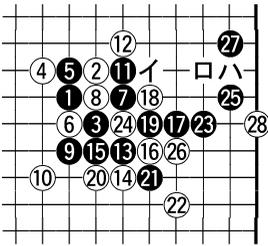


と引けばやはり勝ちが出る。

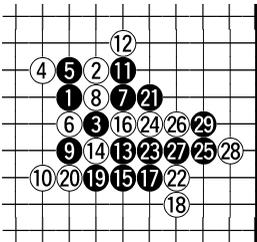
【第20図】白20の変化。白20と下を止めると右辺で勝ちになる。黒21から手順に引いて行けば良いが、黒27とミセ手を打つのが肝要である。白28と止めても以下四追い。

【第21図】白14の変化。あと強そうな変化は白14だが、これには黒17、19とノリ手に構わず打つのが手筋である。白20とノラれても、黒21と止めておいて問題ない。白22ではどこを止めても黒勝ちである。例えば白22なら黒29まで。その他、白14を19なら、黒23とトビ三を打って良い。

第20図



第21図



のがやはり絶好である。問題は白14と止められた時だが、黒15と引いてから黒17と押さえる。白18ならさらに黒19と押さえて、白20の止めなら黒21が決め手の一手。これを23では21に防がれる。白22は仕方がないが、黒23と引いて以下イウチの四追いがあ。なお、白18を20も強いが、黒18